

園の自己評価表(総評)

令和4年度

評価の視点

子どもの活動や状態に対する評価と、保育士自身の保育や援助、環境設定等に対する評価を総合的に判断して、各月及び年間の評価を行う。詳しくは以下を参照とする

評価の視点参照	評価	自己評価
設定したねらいの保育がクラスの達成を確認できたか	B	年齢に沿ったカリキュラムを作成し月案、日誌等で達成を確認できている。
子どもの状況に応じて柔軟な保育ができていたか確認する	A	個性や特性を配慮し、寄り添う保育を行っていった。対応に困った際には職員間で話し合い周知して対応していった。
発達過程に沿った、また発達段階に必要な経験をさせられたか	A	一人ひとりの子どもの状態がより把握できるよう職員間でも話し合い、勉強会でケース等を設け全職員で情報の共有を行っていった。
子どもの心の育ちや意欲、取り組む過程への配慮は適切だったか	A	勉強会でケースワークを開き話し合うことで取り巻く環境や対応などを共有していく。そのため、共通理解することでそれぞれが同じ対応をすることができ+あ。
環境構成は適切だったか	B	各クラスの安全管理の面で十分に配慮することができていなかった。反省点を踏まえ、職員間でも周知し、今一度保育環境を見直し対応していった。
養護的な配慮がなされていたか	A	毎日の検温、体調管理を徹底し、感染症などの予防を内外共に周知できるよう掲示やメールなどでも周知するよう務めた。
保育者間で必要な連携は取れていたか	A	前年度の反省を踏まえ、職員一人ひとりが積極的に意見を出し合い、連携をとって保育に努めていた。
保護者との連絡は十分に取れていたか	B	コロナ禍の中、玄関先で子ども達の受け入れを行っていたため、普段から保護者と連携をとる事ができなかった。必要な事は電話連絡やメール、おたより帳を利用していた。
必要な記録の確認は適切である。	A	一人ひとりの記録や発達は細かく残していくよう努めていった。
社会人のとしての専門家として自ら資質の向上に努め結果を出すことができたか	B	前年度は思うように研修を行うことができなかったがオンライン等でできる研修を全職員で行うことができた。
前期の反省、評価は生かされていたか	B	行事などを踏まえ職員間で連携を取り取り組む事が出来た。

総 評

今年度も感染症対策をする中、保育の行事、職員の研修、日々の保育内容など、為職員間で話し合いより良い保育内容、注意すべきことなどを職員間で共有していった。制限がある中、子ども達が楽しめる保育について職員間で話し合い工夫していった。
 ・保育室の安全管理について話し合い、対策をしっかりと行っていった。そのため、大きなけがにつながる事はなく安心、安全に過ごすことができた。